授業にかかわる私の教育観を確認してみよう

自分自身の振り返り

１.成長する教師を目指して

日々の授業実践において、教師にとって重要な位置を占めている教育にかかわる技は、これまで主に教育実習、授業参観、校内研修あるいは研究会を通じて、さまざまな形態で、教師から教師へと引き継がれてきました。その意味では、教育技術というのは一人ひとりの教師が個人的に習得していくノウハウであるともいえますが、複雑化する教育現場の実態を考えると、多くの人のノウハウを共有することが、教育現場が抱える課題を解決するのに大切であると同時に、よいものを磨き上げていくことで、一人ひとりの教師の授業実践力が向上するとともに、教師集団の授業実践力も向上し、結果的に、児童・生徒の生きる力を育成につながります。

そう考えると、一人ひとりの教師が教育にかかわる技を磨き上げるということは、同僚性が一番発揮される場ともいえ、そこで重要になることは、教師自身の伝達能力、つまり、自分の経験をどのように記述するか、どのように伝えるかが重要になるというわけです。

文章や言葉になりにくい個人の知識である経験知や、暗黙知と呼ばれている知識を、他者に正確に伝達するための明示知に変換し表現できることが求められます。

そこで、この研修では、授業という日常の教育実践を題材に、知識伝達の方法を明確にして、お互いの経験をスムーズに交流し、自分の実践に活用することができるようになるための演習を行い実践力を高めていきます。

授業研究はこれまでにも数多くなされていますが、一人ひとりの教師にその成果が十分に活かされていない状況もあります。この演習では、そこでまずお互いの教育にかかわる技について未熟であっても、あるいはすでに熟達していても、自分の経験を紹介しながらお互いに学びます。

つまり、お互いがもっている技・知識・技能などを、相互に活用しながらチーム学習を進めることで、自分自身の実践にどのように活用するかを考えていくことになります。

ここで重要なことは、教育にかかわる技とは、単なる技術（テクニック）ではなく、実践を通して自らの学習指導を批判的に改善できる専門的な（職能的な）技であるということを共通理解しておくことです。

教育にかかわる技というと、教え方（技術）に意識が偏りがちですが、教科内容が複雑化し、さまざまな社会的課題が社会的要請として教育現場に課せられ、かつ、児童・生徒の実態も多様化し、地域社会や家庭での学びのあり方も関連づけなければならなくなっている現在の教育現場の状況では、単なる教え方（技術）の充実を図ることだけでは、諸状況に十分に対応することはできません。教師と児童生徒との相関の中での学びを設計し、実施し、管理し、評価できる技を磨き上げることが求められているといえます。

２. 自分の教育スタイルはどうなのかな

① 日々の授業実践で、意識することの少ない自分自身の教育スタイルを、確認してみましょう。

私は授業をどのようにみているか
私の授業観
私の教材開発法
私の授業設計ポリシー
授業の構成のポイント（授業を説明する）
授業の中で難しい感じたこと

② グループ内で、それぞれの項目について、話し合ってみましょう。

授業実践力アップのために
授業の技を見いだそう

授業実践力を向上させるために、授業分析と授業設計にチャレンジしよう。

○授業分析…観察・記録・分析・解釈し、解決策を考える。

○授業設計…思いつきのイメージ化し、具体的に計画し実施し、その成果を評価する。

これまでにも、授業記録を作成しての授業研究は、体験していると思いますが、観点を少し絞り込んで、授業にかかわる技を自分なりに見つけ出してみましょう。

教師と児童・生徒との間とのやりとりには、教師の意図がはっきりした行為と、教師がはっきりとした意図を意識せずとる行動とがあります。

行為：人が意図をもって行うこと
行動：意図が推測できなくも行いとして観察されるもの

そこで、「教える」という行為を分解してみると、
意図（教育目標：ねらい）を持って
内容（教材観：教科・領域）を研究し
（児童生徒の）認識（児童・生徒観）がどのような状態化を把握し、
（具体的事例の選択）の判断（指導観）をし、
行動（指導）する。
となり、教師の授業実践力は、この意図，認識，判断，行動にかかわる技を意識することでアップしていきます。

これら技にかかわる場面と力量は、教師自身が主導しながら教える力量と、児童・生徒が中心になって展開する学習を設計・実施・評価する力量とに分けて考えることができます。
そこで、用意された授業ビデオを視聴し、グループの何人かで
教師の視点からみたときの指導内容のを記述
生徒の視点からみたときの学習過程の記述
教科内容を知識の要素に分解した記述
の３観点で授業を分析して、学ぶべきことと、解釈し改善したいところを明確化し、議論することで、授業実践力の向上を目指しましょう。

授業の記録は、発問・板書・指示・発言・活動・その他といった一般的な観点（場面）でチェックしていきましょう。

それぞれの場面で、教師のどのような技が反映されているのかを考察することで、教師の意思決定のあり方を探ることができます。

教師の意思決定は、教師一人ひとりの教育観もしくは教育理念によって異なってきますが、そのような考え方に立てばとか、このような場合にはといったように、他の先生の授業を特定性のもとで観察するのではなく、自分がもしその場にいたらどのような意思決定をするだろうかという具体的な解釈論へと進み、実際に自分の授業実践にも活用できる分析へと内容が具体化していきます。

①技にかかわりそうな、外観に見えている教師や児童生徒の発言や行動などを、ビデオを見ながら表に記述する。（記録が追い付かない場合は、空欄にしておく）

時間	対象	行　動（場面と発言など）	行動コメント
1,03	T	板書　「学習課題」	
2,05	T	発問　たとえば？	
3,35	T		
4,25	S	発言　資料を見て○○と考えました	
6,40	T	発問　その考えに賛成の人は？	
〜	〜	〜	〜
7,13	S		
〜	〜	〜	〜

②表を見て、授業展開のまとまりを見つけ出し、異なる展開の場面に境界線の区切りをつける。

時間	対象	行　動（場面と発言など）	行動コメント
1,03	T	板書　「学習課題」	
2,05	T	発問　たとえば？	
3,35	T		
4,25	S	発言　資料を見て○○と考えました	
〜	〜	〜	〜
6,40	T	発問　その考えに賛成の人は？	
7,01	S	……	
7.13	S	……	
〜	〜	〜	〜
9,13	S		
〜	〜	〜	〜

③記録をみて、なぜそのような言動をおこしたのかの解釈や、その場面での意図などの補足の説明を「行動コメント」欄に追記する。
（例： 単語が理解できていないので確認している）

④「行動」欄が空欄となっている場合、記録や解釈を手がかりにしながら追記したり、記述されている場面など、必要に応じて書き換える。

⑤効果的な教師の活動（作戦）と児童・生徒の反応といった対応関係や、こうすればもっとうまくいくといった部分を選び、まとまりをもつ一連のデータをグルーピングし、そのグループに名前をつけ（ラベル化）、いくつか重要なグループを選ぶ。

時間	対象	行　動（場面と発言など）	行動コメント
1,03	T	板書　「学習課題」	問題意識を明確にするため
2,05 …	T …	発問　たとえば？ …	気付きを具体化しようとしている ゆさぶり
4,25	S	発言　資料を見て〇〇と考えました	自分の言葉で説明
6,40	T	発問　その考えに賛成の人は？	関連性を意識
		…	

ラベル化は、以下のキーワードを参考にしながら、その状況を的確に示す言葉で記述する。（行為と行動を組み合わせたり、新たなキーワードを考えてもよいでしょう）

教師の行為（意図）から	教師の行動から
1　思考要求	A　学習課題の提示
2　ゆさぶり	B　情報の提示
3　拡大要請	C　資料提示
4　視点の転換	D　実験・実習
5　焦点化	E　観察
6　掘り下げ	F　発問
7　確認	G　発問の繰り返し
8　想起	H　問いかけ
9　まとめ	I　問い返し
10　評価	J　指名
	K　行動の指示（話し合い）
	L　作業の指示（書く，描く，作る）
	M　助言
	N　説明

	O　言い換え P　例示 Q　励まし R　沈黙 S　確認 T　受容 U　評価

⑥ポイントとなりそうなグループを３つ以上選んで、それぞれについて以下の４つの視点でデータカードを作成する。

■　技　：　教師や設計者の意図や目的
■　効果：技の機能の説明
■使いどき：効果を発揮する場面の手がかり
■具体的行動：外部から観察可能な行動

データカードの例　（教師に視点を当てた場合）

技	思考要求の発問
効　果	数名の児童が複数の視点から気づいたことを持ち寄って話し合いに参加してくる。
使いどき	児童の視点が提示資料の内の情報に限定されていて広がらないとき
具体的行動	発問 「これでは失敗します。なぜでしょうか？」

指導カード

学びカード

データカードの例　（子どもに視点を当てた場合）

技	再構成の説明
効　果	学んだ知識と自分の知識を関連づけて納得できるようにする。
使いどき	さまざまな知識がいくつかそろい整理が必要なとき
具体的行動	自分の言葉で説明する 「～から、私は○○だと考えました。」

⑦作成したカードをカテゴリーごとに分けて、整理する。

※技 と 具体的行動 の関係

「(技) のために (具体的行動) した」と説明できるような関係

例：ゆさぶるために情報を提示した

技　　具体的行動

指導カードを整理した例

技	効果	使いどき	具体的行動
承認	生徒が話に耳を傾ける，自信を持って取り組む	行動が停滞しているときや活動のあと	オウム返しする，フィードバックする
制約外し	生徒が自由な発想でたくさん発言する	発想に限界がみられるとき	仮定する 「もし失敗しないとしたら」
焦点化	時間を有効に使いながら議論が十分深まる	議論の視点が拡大してまとまらないとき	優先順位を示す，論点を示す

学びカードを整理した例

技	効果	使いどき	具体的行動
気分転換	エネルギーがチャージされた状態で行動できる	思考が煮詰まったとき	体を伸ばす 席を立つ
刷り込み	しばらく記憶していられる	試験前等、完全に覚えたいとき	繰り返す
逆算	最も効率よく、無理せず完了できる	課題が山積みになっているとき	優先順位を示す

⑧ここまでの作業作成したカードを、チーム内で紹介し合い分析しましょう。

※解釈の例

［行動を意図から解釈した分類］

沈黙	1　授業マネージメントを意図した沈黙 2　児童による発言内容の訂正を意図した沈黙 3　疑問を持たせることを意図した沈黙 4　理解状態を観察することを意図した沈黙 5　多様な考えを出させることを意図した沈黙 6　主体的な構えをもたせることを意図した沈黙 7　思考がまとまるのを待つための沈黙
確認	1 他の児童の発言についての理解状態を把握することを意図した確認 2　学習内容の理解状態を把握することを意図した確認 3　発言内容の明確化を意図した確認 4　話し合いの方向付けを意図した確認
問いかけ	1　詳しい説明を求めることを意図した問いかけ 2　本音出させることを意図した問いかけ 3　多様な考えを出させることを意図した問いかけ
例示	1　話し合いのスキルを獲得させることを意図した例示 2 コミュニケーション連鎖を起こさせることを意図した例示 3　意見をださせることを意図した指示
受容	1　心理的緊張感を解消させることを意図した受容 2　まとめを意図した受容 3　対立的な意見が出ることを意図した受容 4　話し合いを方向付けることを意図した受容 5　話題を転換することを意図した受容
言い換え	1　自由な参加を求めることを意図した言い換え 2　話し合いを活性化させることを意図した言い換え
指名	1　理解の変化を確認することを意図した指名 2　注意を引きつけることを意図した指名 3　他の児童への印象づけを意図した指名 4　対立的な意見を出させることを意図した指名 5　授業への参加を促すことを意図した指名
説明	1　理解を深めることを意図した説明 2　反省を促すことを意図した状況説明
資料提示	1　理解を助けることを意図した資料提示 2　説明の手段として使わせることを意図した資料提示
評価	1　発表の成就感を味わわせるための肯定的評価

授業実践力アップのためにⅡ
授業を再構成してみよう

戦略的に授業を設計することができるように、発表などを通じて手に入れたさまざまなカードを用いながら、チームでビデオの授業の修正案を設計してみましょう。

①「教材カード」を作成する。（分担作業）
授業の最初から最後までを、ビデオで振り返りながら教材カード（設問内容や演習課題の内容やそのタイトルを記述する。できるだけ教材は具体的な形で表現する。）を作成する。

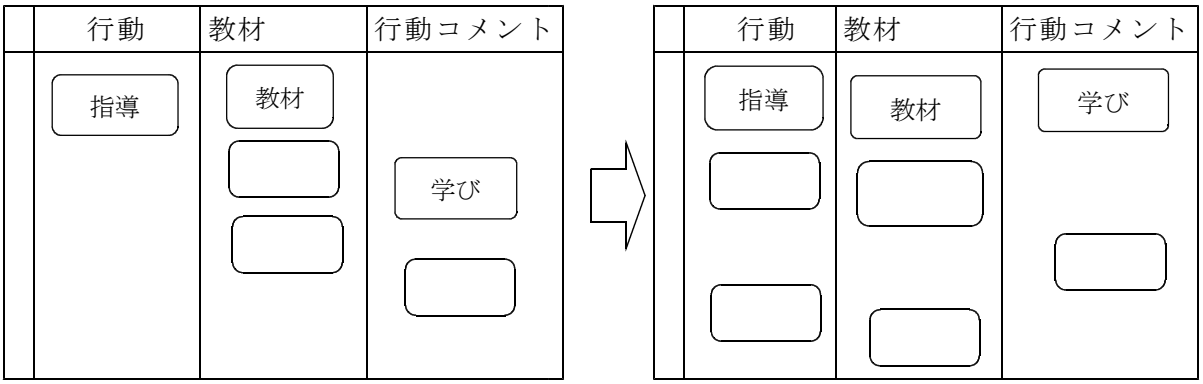
②指導カードと学びカードで、補足するものが必要な場合は、追加する。（分担作業）
どのような技が用いられていたのかを再度メモし、既存のカードと一致するか、不足しているものはないかを確認し、追加するものがあれば追加する。

③作成したカードを並べて、授業を表現（再現）する。

④授業を分析して、こうすればもっとうまくいくというポイントに注目し、集めてきたカードなどを補ったり、カードの順序を変えたりしながら児童・生徒がより学ぶ力を発揮できるような作戦をたてる。
＊同じカードが繰り返し使用される場合は、カードを複製しても構いません。

⑤修正前と修正後のカードの並びの違いと、変更による予測可能な効果を説明できるようにする。

授業の流れに沿って カードを並べながら展開を練る



どこの部分を、どのように変更したか。
変更したことにより、児童・生徒はどのように変化であろうか、説明する。

授業実践力アップのためにⅡ
自分の授業を振り返ろう

自分の授業を見返えすことが、授業実践力アップには、もっとも重要な方策になります。日々の業務に追われてしまうと、なかなか一つ一つの授業を見返すことができません。同僚の先生方に授業を参観していただく中で、自分のよさを伸ばし、改善すべきところを指摘してもらうことが容易な方法ですが、教師の意思決定との関係では、不十分です。

教師自身が、授業進行について困惑（戸惑う）した際の意思決定については、他者による授業参観からの指摘だけでは、なかなか改善することができません。「授業実践力アップのために」の方法を、自分の授業にも当てはめて授業分析をすることで、自分が何をしなければならないのかが、見えてくる可能性が大きくなります。

①簡単な指導案を作成して、授業を実施する。

② 授業を実施している過程を，ビデオで記録する。

③ 研究するのは授業そのものではなく、授業で適用している自分の技やくせである。

④ 記録した資料から外観に見えている自分の行動を分析し、カテゴリーに分類する。
児童・生徒はその行動をみて学習しているので、それを整理する.

⑤ 行動分類から授業を分析し、自分の意図と照らし合わせて解釈する。
意思決定で迷った場面をメモしておく。

⑥ 解釈した結果を整理して、その結果を用いて再度分析する。

⑦ 指導のねらいとしているものを学習指導の技やくせとして整理する。

⑧ 技やくせは日常的に気軽に分析の対象として研究する。
授業を公開した場合は、参観した先生に、気づいたところを簡潔にメモしてもらい、提出してもらう。

⑨ 日常的にいつもビデオ録画する必要はないが，メモをとっておく。

⑩ 判断したことを短文の命題として記録しておき、自分の授業の改善に役立たせる。

⑪ 自分の技やくせをフルに活用して、授業設計し、授業実践にチャレンジする。
くせがマイナス要因であった場合は、くせを軽減する方策を考慮して、授業設計してみる。

小学校１年国語
単元名「あつまれ、ふゆのことば」

１．ねらい
前単元「日づけとよう日」で音読をしながら語のまとまりやリズムを感じ取り、自分のよう日歌をつくった子どもたちが、ふゆのことばかるたをつくるために言葉をみつける場面で、ふゆから連想する言葉を見つけたり、つなげあったりしながらいろいろな言葉を集め、シートに分類してまとめることができる。

２.展　開

過程	学習活動（○）と児童の意識（・）【学習形態】	支援（◇）と評価（※）	時間
課題設定	○　教科書 p. 42 を読む。 ・やりたいやりたい！ ・たのしそう。わたしたちもやりたいな。 ・みんなでかるた大会をしたらたのしそう。 ・どうやってつくるのかな。 ・かるたは絵の札とよむ札があったよね。	◇　範読する （p.42「ふゆ」ということばから、なにがうかんできますか。ことばをあつめましょう。そして、「ふゆのことばかるた」をつくってみんなであそびましょう。）	１０
	学習問題：ふゆのことばかるたをつくってかるたたいかいをしよう		
	・言葉と絵がぴったり合っていないといけないんだな。 ・絵を先に書くと、後で言葉と合わなくなっちゃうかも。 ・言葉から書けばぴったりあった絵がかけそう。 ・リズムがあったな。 ・五七五と四四五だね。 ・よう日歌みたいに作るんだね。 ・あのときみたいに言葉をつなげると良さそう。 ・こんどは冬の言葉をたくさんみつけてつくるんだな。 ・どんなことばがあるかな。 ・いろいろみつけられるよ	◇教師の作ったカルタを提示する。 →同じ雪だるまをテーマにしたカルタを２枚提示し、言葉と絵の特徴を合わせる必要性を想起させる。 （みんなでつくろう　ゆきだるま ・ゆきだるま　バケツぼうしがにあってる） ◇よう日歌を作った際のポイントを提示する。 ①つながることば ②リズムよく！四四五や五七五のリズム	

	学習課題：（読み札を作るためにふゆから連想する言葉をみつけたりともだちと協力してつなげ合ったりしながら） ふゆのことばをあつめよう		
	○「てぶくろ」という言葉からモデル学習をし、学習の見通しをもつ。【全体】 ・「てぶくろ」するとあたたかいから「あたたかい」。 ・「ぽかぽか」するよ。 ・「ふわふわ」している。 ・ぼくは「ふかふか」だと思う。 ・みぎとひだりふたつあるから「ふたつ」。 ・「てぶくろ」はつけてつかうからどうぐだな	◇相互指名をするよう促す。 ◇子どもの言葉をカードに書き込む。 ◇書き込んだカードをシート（たべもの・あそび・どうぐ・できごと・しぜん）に分類する。	
追 究	○ふゆからイメージする言葉を考え、カードに記入する。【個人】 ・ふゆはゆきがふるから「ゆき」にしよう。 ・学校に来るときにみたから「こおり」。 ・ぼくは「クリスマス」にしよう。 ○自分のみつけた言葉を発表し、そこから連想する言葉を班で出し合いカードに記入する。【班】 ・私は「ゆき」という言葉にしたよ。思いつくのはつめたいと白いだけど…それ以外に何かあるかな。 ・ゆきだるまはどう。 ・かまくらもつくれるよね。 ・ふわふわ落ちてくるからふわふわもいいんじゃないかな。 ・ゆきがっせんもできるよ。 ○班ごと連想ゲーム（カードに記入した B の言葉を発表し、A の言葉をあてる連想ゲーム）を行い、班ごと探した言葉を全体で	◇活動が停滞している子どもには、たべものやあそびなど、シートの分類の中から具体的に提示して考えるよう促す。 ※ふゆから思いつく言葉を見つけ、カードに記入することができる（関・言） ◇時間を見て声をかけ、班の全員が自分のカードについて話し合えるよう促す。 ◇活動がはやく終わった班には、連想ゲーム用のカードを選んでおくよう伝える。	２５

	共有する。【全体】 ・あたたかい・ぽかぽか・ふわふわ・ふかふか・ふたつという言葉から、思いつく言葉はなんでしょう。 ・ふかふかであたたかいからマフラーかな？ ・でもふたつってあるよ。		
まとめ	○ふゆの言葉とそこから連想した言葉をまとめたカードを分類し、シート（たべもの・あそび・どうぐ・できごと・しぜん）に貼り付ける。【班】 ・「ゆき」はしぜんのところがいいね。 ・「クリスマス」はできごとがいいかな。 ・「スケート」は、あそびかな。どうぐかな。 ・スケートをしてあそぶものだから、あぞびがいいんじゃない。 ・「おぞうに」や「なべ」はたべものだね。 ・「こたつ」や「マフラー」はどうぐかな。	◇分類が進んだら、まだ言葉の入っていない箇所について意見を出し合うよう伝える。	１０